



# 石神井南中学校 学校だより

平成30年度 第2号  
発行日 5月22日(火)  
練馬区立石神井南中学校  
校長 田邊克宣

数日前までの大きな寒暖差から一転、夏日が続いています。目映（まばゆ）いばかりの陽光の下、校庭からは児童・生徒の元気な声が代わる代わる響いてきます。下石小の児童と、本校の生徒が、それぞれ間近に控えた運動会に向けての練習に、いよいよ熱く取り組んでいる様子です。弾けるようなその声に若人の生命力を感じます。

さて、ここ練馬から西に電車とバスを乗り継いで2時間強、そこはすでに山の中、樹木が鬱蒼（うっそう）と生い繁った辺りには、大自然の力強い生命力が満ち溢れています。水辺に差し掛かる新緑の枝を見れば、ソフトボールより大きな白い泡状の塊が二つ三つぶら下がっています。東京では準絶滅危惧種に認定され、地域によっては天然記念物に指定されてもいる稀少生物であるモリアオガエルの卵です。やがてオタマジャクに孵（かえ）る様子を想像しながら、23区からほど近いこんな所に残っている自然を、大切に、後世に伝えなければという思いが湧きおこってきます。そう思って周囲を見渡せば、四方に枝葉を広げる紅葉に、絡みつく藤の枝が、“葛藤”の言葉さながらの様子を見せています。それぞれが思い思いに伸び、繁り、あるものは共生しながら、一方では立ち枯れてしまっているものもあり、自然界の厳しさを改めて感じると共に、ふと、教育の在り方に思いを馳せた次第です。

学校は、多種多様な子供が集まって、一日の活動時間のほとんどを過ごす場所です。人との関わりの中で、仲良くしたりぶつかったり、主張したり妥協したりしながら、葛藤しつつ自分自身を見つめ、翻（ひるがえ）って他者を認め、受け容れ、同時に自己肯定感を培いながらよりよい社会性を育んでいく場です。そうした中、大自然のように自由奔放に、伸びるに任せて放っておくには、現代社会は複雑になりすぎています。いじめやスマホの問題など、大人が関わっていくべき事柄はたくさんあります。かといって、盆栽のように葉の一枚一枚にまで手を入れることは、子供の意思、はたまた人権を尊重するという視点からは受け容れがたいものです。今後、国際化が一層進んでいくであろう社会においては、全体の安定と調和を維持しながら、同時に個を大切にすることの必要性がいや増していきます。自分を大事にしながら、他者をも認める寛容な精神を育むためには、やはり一人一人に向き合い、その個に応じた働きかけを行っていくことが肝心です。同じ種類の樹であっても、それぞれに個性があり、剪定に当たっては、伸ばすべき枝、切りそろえるべき枝は一本一本違うものです。各々の特性に見合った手の入れ方をすることで、その樹にふさわしい成長を遂げていきます。そして、個性ある一本一本の樹が集まって、生き生きとした林となります。林とはつまり、社会であり、それを豊かに形作る木々、つまり一人一人の人を育てていくことが、学校教育の使命の一つであると考えます。

今、石南中の生徒たちは、落ち着いた環境の中で日々の学校生活を送っています。生徒自身が主体的な意識をもって取り組んでいる姿に他なりません。中学生は思春期の真っ只中、ともすれば反抗期の名の下に、何かと斜に構え、素直でないという一般的な見方があります。が、最新の医学では、脳が自己制御を行うべく大きく発達する時期であるとの研究成果もあるようです。石南中の生徒には、ぜひ、今の素直な心持ちはそのままに、よいことはよい、だめなものはだめという分別を身に付け、そして自分の思うように未来を思い描き、それに向かって一步一步着実に歩いてほしいと心より願います。一人一人みな違う個性をもった子供たちが、他者を認め、互いに高め合いながら成長していくために、本校では、教職員一丸となって教育に当たって参ります。家庭、地域のご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 1年生校外学習を終えて

河原畑 幸乃

5月1日、快晴の中、1学年は千葉の富津海岸へ校外学習に行きました。実行委員会を中心に、しおりの作成、バス内で行うレクリエーションの準備を進めました。全体では事前学習として、潮干狩りの注意事項や、多く貝を取るコツ、アサリとハマグリの違い、貝料理などについて調べました。中学生になって初めての校外での学習ということもあり、ワクワクした雰囲気が漂っていました。

当日、最高気温が30度近くまで上がるという予報で、熱中症などの不安を抱えながら海岸へバスで向かいました。海岸に着くと、気持ちよい風が吹いていて、思っていたよりも体感温度は高くありませんでした。潮干狩りがスタートすると、班ごとに貝を探すために会場のあちらこちらへと散らばって行きました。最初はなかなか貝を見つけられませんでした。事前学習で学んだことを思い出したり、たくさん貝を取っている一般の方にコツを聞いたりしていました。空だった貝を入れる網は、終わる頃には溢れるほどの貝で一杯になっている人がたくさんいました。あまりたくさん取れていない友達に、自分の貝を分けてあげるといふ優しさも垣間見えました。私自身も、ハマグリが取れず探していたら、たくさんの子が「先生、これあげます!」「これもあげます!」と、ハマグリを分けてくれました。帰りのバスでは、行きのバスよりもレクリエーションが盛り上がっていました。校外学習が終わり1週間経ちました。教室は、入学式後よりも集団としての自覚が増し、充実した生活を送っています。これから運動会や臨海学校があります。今回の校外学習での経験を糧に、1学年1学級で頑張っていきたいと思います。



## 2年生校外学習を終えて

百田 真矢

今年度の2年生は『共に学び 友と成長し、修学旅行への道を切り開け』のスローガンを掲げ、校外学習に取り組みました。3年生の修学旅行を見据え、今回は東京を飛び出して鎌倉での校外学習となりました。当日は晴天に恵まれ、夏のような暑さの鎌倉でした。ゴールデンウィーク期間ということもあり、多くの観光客や中学生・高校生がいました。特に小町通りはなかなか前に進めないほど多くの人でした。そのような環境でしたが、大きな事件や事故に巻き込まれることなく、班員が協力し合い全員が石神井公園駅に戻ることができたことは大きな成果だと思います。今回出てきた反省点を今後の学校生活に活かし、生徒にとって「修学旅行」が最高の思い出となるよう、これまで以上に主体的に取り組ませていきたいと思います。事後学習の発表会は6月9日(土)に実施予定です。各班どのように自分たちの学んだことをまとめるか、今から発表が楽しみです。保護者の皆様もぜひご覧になってください。

